

自然と調和した住みよい環境をつくる

街路灯整備事業	8,526
定住促進持家住宅建設事業	1,000
幌延町施設案内標識設置事業	9,854
地域新エネルギービジョン策定等事業	7,974
町道除排雪	50,967
町道下沼14号線防雪柵設置事業	23,000
町道幌延1号線道路改良事業	17,136
町道幌延下沼線道路改良事業	40,000
町道2条線道路改良事業	29,999
町道1条仲通線道路改良事業	28,781
町道問寒21号線道路改良事業	9,996
栄町団地公営住宅補修事業(5棟12戸)	6,001
宮園団地公営住宅整備事業(1棟12戸建設)	100,827

生き生きとした魅力ある産業をつくる

中山間地域等直接支払事業	75,753
担い手対策事業	500
乳牛検定組合補助事業	2,550
幌延地区畜産担い手育成総合整備事業	51,763
問寒別地区畜産担い手育成総合整備事業	90,942
幌延町酪農ヘルパー利用組合補助事業	6,800
生乳成分検査事業	1,502
農業用水道施設改修事業	22,247
森林管理道上幌延線開設事業	26,035

町有林整備事業	5,365
21世紀北の森づくり推進事業	7,132
幌延町商工会育成事業	9,773
幌延町商業店舗近代化促進事業	20,000
ほろのべ名林公園まつり事業	4,930

明るく健康な暮らしをすすめる

社会福祉協議会活動推進経費	3,731
老人福祉施設管理経費	17,577
老人クラブ活動推進経費	680
幌延福祉会運営費補助事業	6,460
保育所管理経費	18,937
保健推進事業	6,546

学ぶところと文化を育てる

情報教育研究推進事業	2,282
小学校管理費	56,168
中学校管理費	21,465
公民館運営管理費	19,292
総合スポーツ公園維持管理費	12,188
総合体育館維持管理費	13,277

町民参加のまちづくりをすすめる

広報誌「ほろのべの窓」発行経費(年12回)	4,158
自治会活動促進経費	1,197

町の家計は大丈夫?

平成18年度の幌延町の決算額は、一般会計、特別会計及び病院事業会計合せて収入が55億9,405万4千円、支出が53億8,259万0千円、翌年度繰越財源額80万9千円、差引12億1,065万5千円でした。

町の各会計予算は、町民の皆さんから納めていただいた税金などのお金を、どのように有効活用して事業を行うかということが大事になります。ただ、収入と支出の差が大きければ良いということではなく、抑えるべきところと使うべきところのバランスが良くなければならないということです。

予算のバランスを見るための物差しが、次の各比率です。幌延町(普通会計)の数字を見てみましょう。

- 経常収支比率 84.3(81.9) 平成18年度の数字です。
- 公債費比率 13.0(13.7) ()内の数字は平成17年度のものです。
- 起債制限比率 8.3(8.0)

経常収支比率

財政構造の弾力性を測定する数字です。町が自由に使えるお金(地方税、地方交付税、地方譲与税など)の中で、人件費や物件費、公債費(借金の返済金)など義務的性格の経常経費が占める割合で、この比率が高いと町独自のいろいろな事業が出来なく

なってしまいます。町村では75%が一応の目安となっていますが、町の数字はそれより高めです。国から交付される地方交付税の削減や、公共施設などの維持管理費がかさんでいることなどが要因ですが、行財政改革の推進により、効率的な行政運営を図っていきます。

公債費比率

今までの借金のその年度の返済金が公債費です。この公債費が地方税、地方譲与税などの一般財源に占める割合で、15%が警戒ラインとされています。今後とも、事業の緊急度、必要度の高いものを選別し、効率的な事業の推進を図っていきます。

起債制限比率

地方債(長期の借金)の許可制限に係る指標で、13%以下が財政の健全性を示す数字です。公債費比率と違うのは、借金の償還元金と利子に対して地方交付税で措置されている額を除いて算定している点で、起債制限比率のほうが財政の実態をより表しています。

以上の数字から見て、国から交付される地方交付税の削減により一般財源(町が自由に使えるお金)が減少し、町民の皆さんのニーズにあわせた施策を進める事が困難になってきていますが、行財政改革の推進を図り、「最小限の経費で最大の効果」を念頭に、更なる経費の見直し、優先順位の検討などを進めてまいります。